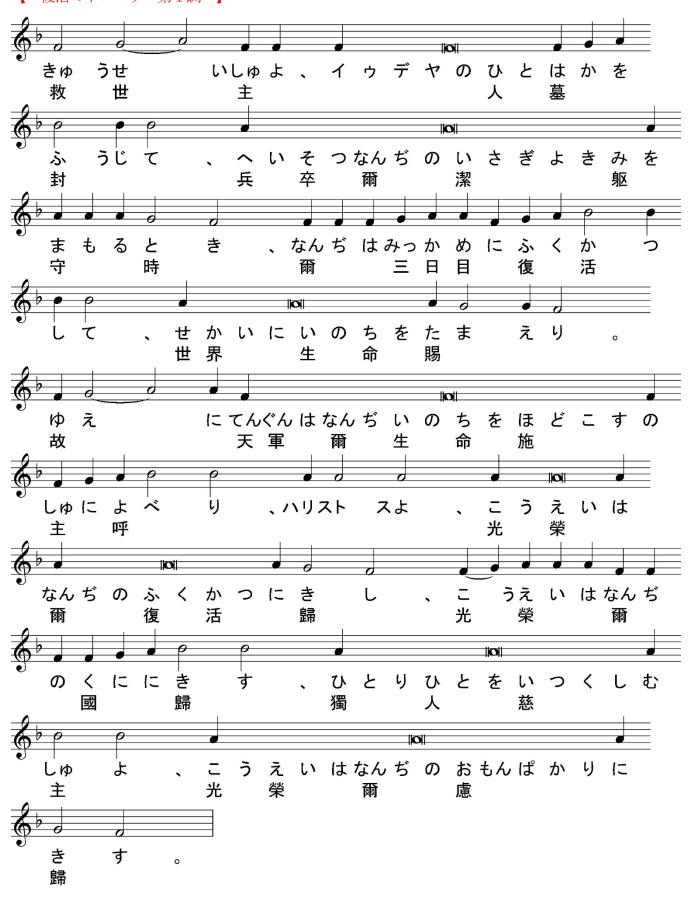
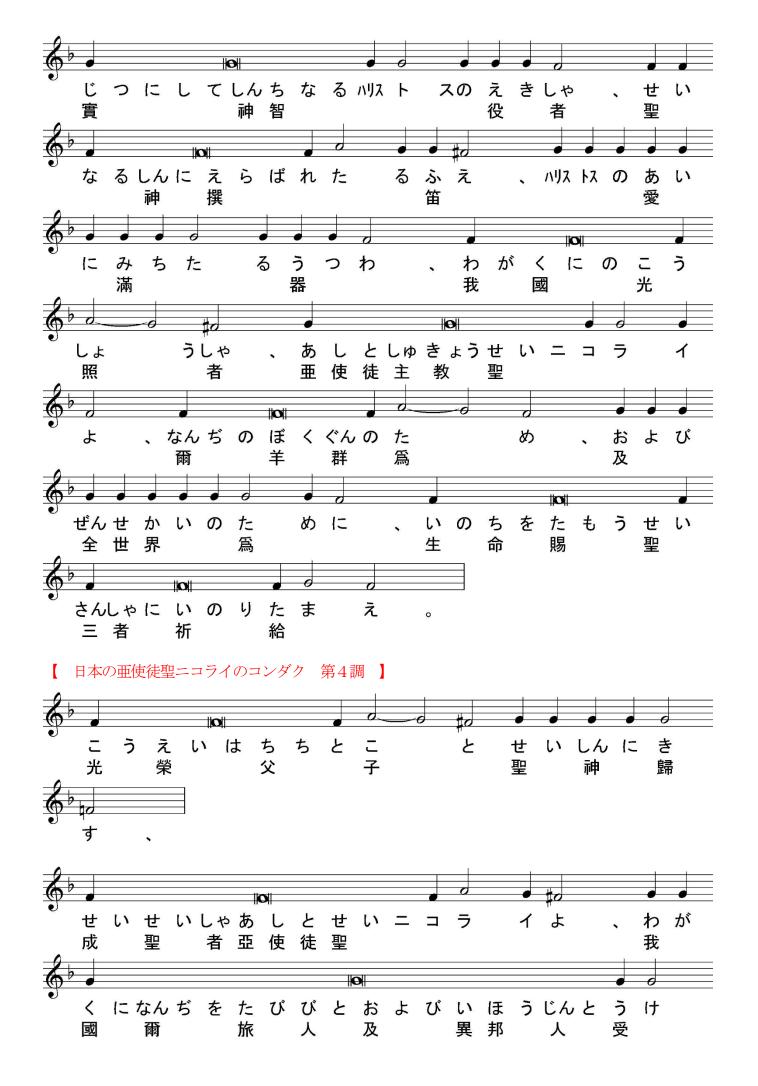
【 復活のトロパリ 第1調 】



【 日本の亜使徒聖ニコライのトロパリ 第4調 】







【 復活のコンダク 第1調 】





司祭)(黙誦: 聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌 せられ、ヘルヴィムより讚楽せられ、 悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸 の 賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其 救 の為につうかい た 我等卑しくして不當なる 爾 の諸 僕を、此の時に於ても、 爾 が せいる 祭 壇 の光 榮 の前に立ちて、 爾 に當然の伏拜 讚祭を 奉 るに堪うるもの 光 笑の 前に立ちて、 爾 に當然の伏拜 讚祭を 奉 るに堪うるもの となし、主きなし、 なんちゅうかい た なんち をきないたん なんち が せいる 祭 壇 の光 笑の前に立ちて、 爾 に當然の伏拜 讚祭を 奉 るに堪うるもの となしし主宰よ、 爾 親 ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、 爾 の とんじ もつ われら のぞ われら およ じゅうとしゅう なんち のぞ おれら およ とゅうとしゅう なんち のぞ おれら およ じゅうとりも 聖 三の歌を受け、 領 の とんじ もつ われら のぞ みれら およ じゅうとしゅう なんち のぞ なんち なんち のぞ なんち からだ とき 聖にし、我等に生 生 涯 夢りを以て 爾 に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より 爾 の 喜 を為しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

けだしわ かみ なんぢ せい われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ司祭) 蓋 我が神よ、爾 は聖なり、我等光榮を爾 父と子と聖神に献ず、今も何時も世世

に、







司祭)(黙誦: 主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國 こうえい ほうざ ぁ つね ぁが ほ いっ よよの光 榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、)

プロキメン 【 提綱 主日第1調 】

つつし き しゅうじん へいあん 可祭) 愼 みて聽くべし、衆 人に平安、

^{なんぢ}しん <mark>誦經) 爾 の神にも、</mark>

司祭) 睿智、

しゅ われらなんぢ たの ごと なんぢ あわれみ われら た たま <mark>誦經)プロキメン、主 よ、我等爾を頼むが如く、爾の隣を我等に垂れ給え、</mark>



ぎじん しゅ ため よろこ さんえい るぎしゃ かな 誦經) 義人よ、主の爲に喜べ、讃榮するは義者に適う、





しゅ われらなんぢ たの ごと **誦經**) 主よ、我等爾を頼むが如く、



「アポストロス 【 使 徒 經 188 端 コリンフ後書9 章6~11 節 】

えいち 司祭) 睿智、

せいしと がコリンフ人に達する後書の讀、

っっし 司祭) 謹 みて聽くべし、

開密 兄弟よ、芝しく稼く者は芝しくたり、 ゆたか まもの ゆたか に からん。人 各 其 心 の はつ なする 所に 随 い、 うれい な なんちら を ま がん とを 能 す 、 はんちらつね まよそ の ままん で なんちら なくして、 凡 の 善事を爲すに 饒 ならん 爲 なり、 録されしが如 し、 云 く、 彼は散じて、 貧者に 施 せり、 其義は世世に 存すと。 播く者に種 を 與え、 し食 の 爲 に餅を備うる者は、願わくは 爾等が播く種を備え且 殖し、又 爾等の義の實を益さんことを、 爾等が 凡 の事に富むに由りて、 博く 施 すを得ん爲 なり、此れ我等に由りて神に たてまっる感謝を作す。

(比較用 口語訳) 少ししかまかない者は、少ししか刈り取らず、豊かにまく者は、豊かに刈り取ることになる。各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、自ら心で決めたとおりにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。 神はあなたがたにあらゆる恵みを豊かに与え、あなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざに富ませる力のあるかたなのである。「彼は貧しい人たちに散らして与えた。その義は永遠に続くであろう」と書いてあるとおりである。 種まく人に種と食べるためのパンとを備えて下さるかたは、あなたがたにも種を備え、それをふやし、そしてあなたがたの義の実を増して下さるのである。 こうして、あなたがたはすべてのことに豊かになって、惜しみなく施し、その施しはわたしたちの手によって行われ、神に感謝するに至るのである。

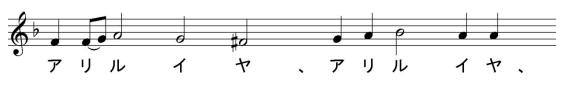
【 アリルイヤ 主日第1調 】

^{なんぢ}へいあん 司祭)爾に平安、

^{なんぢ}しん **誦經)爾の神にも、**

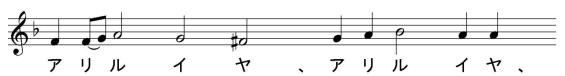
えいち 司祭) 睿智、

誦經)アリルイヤ、





ねが わ ため あだ かえ われ しょみん したが かみ さんしょう 誦經)願わくは我が爲に仇を復し、我に諸民を従わしむる神は讚 頌 せられん、









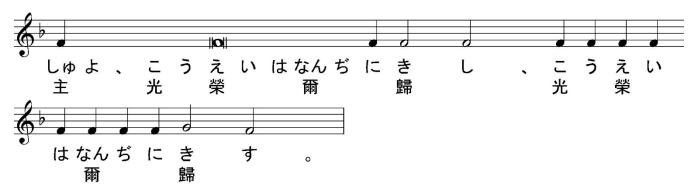
可祭)(黙誦: 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の 浄 き光を輝かし、我が思念の まで、 なんぢょくいん おしえ さと たま わ うち なんぢょく いましめの目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる 誠 をおそれ い かれら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢょうこ ところ 畏るる 畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

エヴァンゲリオン 【 福 音 經 ルカ福音書 26端 6章31~36節 】

えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん 司祭)睿智、 粛 みて立て聖 福 音 經を聽くべし、衆 人 に平 安、



でん せいふくいんけい よみ司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



(比較用 口語訳)人々にしてほしいと、あなたがたの望むことを、人々にもそのとおりにせよ。自分を愛してくれる者を愛したからとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、自分を愛してくれる者を愛している。自分によくしてくれる者によくしたとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、それくらいの事はしている。また返してもらうつもりで貸したとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でも、同じだけのものを返してもらおうとして、仲間に貸すのである。しかし、あなたがたは、敵を愛し、人によくしてやり、また何も当てにしないで貸してやれ。そうすれば受ける報いは大きく、あなたがた

はいと高き者の子となるであろう。いと高き者は、恩を知らぬ者にも悪人にも、なさけ深いからである。 あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ。



※ 聖体礼儀③(金口イォアン)へ